

# 総務常任委員会会議録

〔平成27年 7月24日開催〕

南あわじ市議会

# 総務常任委員会会議録

日 時 平成 27 年 7 月 24 日  
 午前 10 時 00 分 開会  
 午前 11 時 34 分 閉会  
 場 所 南あわじ市議会委員会室

## I. 出席委員、欠席委員、事務局出席職員及び説明のために出席した者の職氏名

### 出席委員（7 名）

委 員 長	原 口 育 大
副 委 員 長	柏 木 剛
委 員	長 船 吉 博
委 員	蛭 子 智 彦
委 員	北 村 利 夫
委 員	中 村 三 千 雄
委 員	谷 口 博 文
議 長	廣 内 孝 次

### 欠席委員（1 名）

委 員	森 上 祐 治
-----	---------

### 事務局出席職員職氏名

局 長	小 坂 利 夫
課 長	塔 下 佳 里
書 記	川 添 卓 也

### 説明のために出席した者の職氏名

市 長	中 田 勝 久
副 市 長	川 野 四 朗
危機管理部 長	佃 信 夫
企画部長(うずしお世界遺産登録推進担当)	橋 本 浩 嗣
総 務 部 長	細 川 貴 弘

市 民 部 長	高 木 勝 啓
会 計 管 理 者	堤 省 司
危機管理部危機管理課長	藤 本 和 宏
企 画 部 秘 書 課 長	田 村 愛 子
企画部ふるさと創生課長	北 川 真 由 美
企画部うずしお世界	阿 部 員 久
遺 産 推 進 課 長	富 永 文 博
企 画 部 情 報 課 長	垣 光 弘
総 務 部 総 務 課 長 兼	
選挙管理委員会書記長	和 田 幸 三
総 務 部 財 政 課 長	土 肥 一 二
総 務 部 管 財 課 長	山 崎 稔 弘
市 民 部 市 民 課 長	榎 本 輝 夫
市 民 部 税 務 課 長	
市 民 部 環 境 課 長 兼	北 口 力
衛生センター所長	
会 計 課 長	松 本 典 浩
監査委員事務局長兼固定	
資産評価審査委員会書記長	片 山 雅 弘

## Ⅱ. 会議に付した事件

1. 所管事務調査について…………… 4
  - (1) 市の総合的企画、調整について
  - (2) 行財政計画について
  - (3) 市有財産の維持管理と財源の確保について
  - (4) 消防・防災対策の推進について
  - (5) 情報化の推進について
  - (6) 離島振興対策について
  - (7) 国際交流及び友好市町の調査について
  - (8) 人権施策について
  - (9) 税の賦課徴収について
  - (10) 生活環境の整備推進について
  - (11) 選挙管理委員会、監査委員、固定資産評価審査委員会に関すること
2. その他…………… 3 2

## Ⅲ. 会議録

# 総務常任委員会

平成27年 7月24日（金）

（開会 午前10時00分）

（閉会 午前11時34分）

○原口育大委員長      おはようございます。

やっと何か、梅雨明け以降もぐずついていたんですけども、天候が回復してきました。ぜひ、日照不足等で稲の生育なんかもおくれてるような感じがしますので、早いこと回復してほしいなというふうに思います。

それでは、本日、総務常任委員会を開催させていただきたいと思います。

まず、執行部、御挨拶をよろしくお願いします。

市長。

○市長（中田勝久）      皆さん、おはようございます。

きょうは、総務常任委員会の所管事務調査ということで、先生方には御苦労さんでございます。まず、私のほうから何点か御報告をさせていただきます。

先般来、うっとうしいお天気なり、また台風がございまして、11号台風の今、被害状況、24日現在ですが、出てきております。雨量につきましては、総雨量、これは諭鶴羽ダムでございしますが、315ミリ。それから、瞬間最大風速が25.6メートル。また、避難していただいた市民の世帯数は、10世帯で12人ということでございます。

また、被害の内容につきましては、公共では河川が3カ所、道路が11カ所、合計で14カ所になっておりまして、今の被害の想定では、9,000万ぐらいということでございます。また、農業施設では、農地が15カ所、これは畦畔の崩壊が主でございます。また、ため池が8カ所で、神代、慶野のため池が被害を受けてると。また、水路につきましても5カ所、これものり面の崩壊。それから、道路、これも5カ所、のり面の崩壊。合計で33カ所でございまして、この被害の状況につきましては、これも今現在、把握できとる分につきましては、農地で1,500万、ため池で3,000万、水路で1,000万、道路で1,000万ということでございまして、トータル6,500万という状況でございます。

共済につきましても、今、細かいところまではわかっておりませんが、建物共済では6棟、それから、園芸共済10棟、計で16棟でございます。金額はまだ出てきておりません。そういう状況でございまして、何かことしは台風が多いんかなという、私も感じております。

それからもう一つ、この間から、大変な事故が起きております。電柵で、普通、私も牛を飼うとるとき、電柵をよう使うんですが、死亡に結びつくやいうような電圧は、今の警察の発表では400ボルトまで上げていたというような話もございしますが、南あわじ市

も結構、電柵のそういう設置をいたしておりますて、市としても、その電柵につきまして補助金を出しております。これが84カ所に出しておりますて、今、その事故が起きると同時に、やはりこの補助金を出している先に、ちゃんとそういう管理ができておるかどうか調査をいたしておりますて、指示も出しております。

今のところは、特に心配があるというふうには聞いておりませんが、結構、私どもの市の中においても、84カ所の電柵の補助金を出しているという状況でございます。いずれにいたしましても、いろいろとこういう思わぬことが起きる世の中でございます。私どもも事前にそういうのを察知して、今後、怠りのないよう取り組んでいきたいというふうに思います。

以上、私のほうからの報告とさせていただきます。

また、大変勝手ですが、中座させていただきます。

○原口育大委員長          それでは、市長退席のため、暫時休憩します。

(休憩 午前10時03分)

(再開 午前10時04分)

○原口育大委員長          再開します。

なお、本日、兵庫県市議会議長会総会出席のため、議長並びに谷口委員につきまして、それと、局長につきましては、11時ごろから退席ということになっております。また、森上委員につきましては、通院しておりますて、おくれて来ることによってございます。

それでは、ただいまより総務常任委員会の所管事務調査を行いたいと思います。

何かございませんか。

蛭子委員。

○蛭子智彦委員          今の11号台風の被害状況が報告をされました。櫛田の、いつも道路冠水をするところ、ここについては、台風の雨が大分流れ込んで、道路に今、掃除をして片づけをした柴とか流木とか、山積みになっておるんですけども、これについて、なかなか片づけてくれないのかなと、私も何回も通るたびに、何で片づけへんのかなということとをちょっと思っておるんですが、あれはどういう事情ですか。

○原口育大委員長          これは、建設課はいませんが、答弁できますか。

危機管理課長。

○危機管理課長（藤本和宏）          この部分につきましては、建設課のほうで対応するという  
ことで聞いております。ただ、ちょっとぬれてるとか、乾かす部分でちょっと時間が必要  
ってるんかと思うんですけど、建設課のほうで対応しますということです。

○原口育大委員長          蛭子委員。

○蛭子智彦委員          危機管理部として全体像は、危機管理部は全体像をつかんでおくと、  
どんな被害があったか、その被害の対応はどうなっているのか、その危機管理部の所管  
事項として、そういう災害時の対応なり、教訓なり、それを部としてつかんでいっとく必  
要があるんじゃないのかなという思いをしとるんですけども、そのあたりはどんなお考え  
なんですか。

○原口育大委員長          危機管理部長。

○危機管理部長（佃 信夫）          おっしゃるように、うちの部としましても、全体の、先  
ほど市長から御報告させていただいたような被害状況については、当然、把握させていた  
だいておりますけども、ただ、細部の対応につきましては、各担当がございますので、そ  
ちらのほうでやっていかせていただきたいと思いますと思っております。

○原口育大委員長          蛭子委員。

○蛭子智彦委員          市民から見れば、これはどこに言うたらいいんかわからんというよう  
なことが、結構起こると思うんですね。行政に携わっている者であれば、これは建設部で  
すよ、これは農業の関係ですよ、あるいは、ごみであれば市民の関係ですよとか、いろん  
な分かれがあると思うんですね。そういうときに、やはり総務であったり危機管理部で  
あったりというところが、ある程度振り分けをしたり、相談に乗ってあげたり、こういう  
ことがやっぱり行政サービスとして必要ではないのかなという思いをしとるんですけど  
も、その点いかがですか。

○原口育大委員長          危機管理部長。

○危機管理部長（佃 信夫）          おっしゃるとおりということで、これからも十分把握し  
た上で、きちんと、いわゆるたらい回しをしないような形での対応をとっていきたいと考  
えております。

○原口育大委員長       ほかにございませんか。  
谷口委員。

○谷口博文委員       私、ケーブルテレビの担当にお尋ねすんのやけど。台風等の影響で、ある事業所のところのケーブルが映らなかったようなときに、土日月と休みやさかい、この週明けに修理していただくというねけんど、その辺のテレビが映らんような状況で、3日も4日も見られへんということは、非常に市民にとっては。この辺の対応というのは、もうちょっとスピーディーにできらんもんなんですか。

○原口育大委員長       情報課長。

○情報課長（富永文博）       今おっしゃってる部分につきましては承知しておりまして、なぜそういうふうになったかにつきましては、今おっしゃってる施設がちょっと大きいものでして、引き込み線が壁面をつたって屋内のほうに引き込んでいるということで、その御連絡を受けたのが17日の夕方ございました。すぐに現場に行って、現場を確認したわけでございますけれども、ちょっとその引き込みの状態が複雑であったために、業者に修繕をさせるということで、その施設の中では、テレビの視聴をされてるのは一つのテナントというかお店でございました。電話もとまっておりますので、その分については、事務局のほうに御連絡しました。

ですから、その店舗の方と事務局のほうに、修繕については週明けにさせていただきたいということを御説明申し上げて、御了解をいただいて、一旦、帰らせていただいたと。で、週明けに修繕をさせていただいたということでございます。

ちなみに、個人の方の引き込みにつきましては、当日も2件ほど、今の分とは別に2件ほどあったわけでございますけれども、現場に行って、仮の復旧をして、見れるような状態で帰らせていただいたというところでございますので、御迷惑をかけたことについてはおわび申し上げますけれども、そのような事情で、週明けの対応とさせていただいたというところでございます。

○原口育大委員長       谷口委員。

○谷口博文委員       いや、今言いよるのは、これは土日祝日やさかい、3日間よ。ほんで3日間休んでから、平日になってから修理しますやいうて言うんでなしに、もうちょっと祝日とか土日であったって、そういうふうな保全ということはできないんですかという質問なんよ。



○原口育大委員長          情報課長。

○情報課長（富永文博）          個人のおたくでしたら、職員の者も応急的な対応をするのが通常でございまして、そのようにさせていただいております。テレビもすぐに映るようにさせていただくようにしております。ただ、今、問題となっております施設につきましては、先ほども申し上げましたように、ちょっとすぐに職員のみでの対応ができなかったもので、そこら辺を御説明申し上げたというところでございます。

ただ、今後につきましては、業者とも十分協議をして、何らかの対策については検討させていただきたいと思いますので、御理解を賜りたいと思います。

○原口育大委員長          谷口委員。

○谷口博文委員          そこらはようわかつんのよ。そやさかいに、土日であつたって、このケーブルの職員で対応でけへんのやったら、業者にでも言うたったら、町の電器屋さんだったら、すぐ対応するで。言うたら、職員が対応できへんとかだったら、町の電器屋さんに言うたったら、電器屋さん、テレビ映らへん言うたら、すぐ来てくれるで、土日祝日であろうと。

そやさかい、その辺が、やっぱり行政が運営しよる施設だったら、しっかりと自分たちの休みの日には休んで、平日になってから修理する体制でなしに、そういう体制を今後とられへんのですかという話をしよるのやさかい、前向きな答弁してもらわな、これ、ずっと11時までやるぞ、ほんま。

○原口育大委員長          情報課長。

○情報課長（富永文博）          御指摘の点、十分考慮させていただいて、今後、対応させていただきたいと思います。

○原口育大委員長          ほかにございませんか。  
北村委員。

○北村利夫委員          先ほど、避難されたというような話もあつたんやけども、これ、いわゆる南海地震を想定してなんですけども、避難場所に行って避難した人のプライバシーというのはどのように確保されるの。

○原口育大委員長          危機管理課長。

○危機管理課長（藤本和宏） 現在の、今回の状況になりますが、大体、各避難された避難所については、夫婦で来られるとか、あと一部、丸山地域については4名が来られております。それについては、2名の方はいつもの方ということで、現状では一緒の部屋で今、おっていただいているというところで、それについて、避難されてる方のほうから、それについて困ってほしいとかいう部分も、今のところはないので、同じ地域の方で、よく知ってる方が避難されているのかと思いますので、そこまではちょっとまだ、現状では考慮しておりません。

○原口育大委員長 北村委員。

○北村利夫委員 いわゆる少人数の場合は多分、近く、顔見知りとあるんやと思うんやけども、先ほど言いましたように、いわゆる南海地震等を想定した場合には、大挙して押し寄せる部分やと思うんよね。そのときのプライバシーの確保というのを考えておられるんかどうか。

○原口育大委員長 危機管理課長。

○危機管理課長（藤本和宏） その部分については、今、現状で資材の備蓄という部分の中で、ダンボールで仕切るとかいう部分で、まだ数的には網羅できない部分があるんですけど、そういう遮断をする方法での資材の備蓄は考えております。それでしております。

○原口育大委員長 北村委員。

○北村利夫委員 それは、いわゆる各避難場所にそういうのを確保しているということですね。

○原口育大委員長 危機管理課長。

○危機管理課長（藤本和宏） 数については、まだ全部はできてないんですが、そういうことを考えながら、資材のほうはそろえていっております。

○原口育大委員長 北村委員。

○北村利夫委員        そしたらちょっと、その後の話になるんですけども、多分、そういう状況で避難された方は、いわゆる着の身着のままというのが多いんじゃないかなというように思うんですよね。多分、もう逃げるのが精いっぱいという形になるんで。そのときにいわゆる衣類等、多分、救援物資という話になってくるのかな。その中で、各地から送られてくる、そのときのいわゆる分配方法等なんかは考えておられるんですか。

○原口育大委員長        危機管理課長。

○危機管理課長（藤本和宏）        それについては、一元管理で集めて、それを各避難所のほうへ配布していくという形では考えてます。ただ、量とかいろいろ、そのときの状況もあるんですけど、今のところはそういう形で考えてます。

○原口育大委員長        北村委員。

○北村利夫委員        いわゆる前の地震のときに、そういう経験はされておられると思うんですよね。多分、必要なものばかりが来ればいいんですけども、そうでない部分が結構あったというように聞くんですよね。だから、そういうことなんで、いわゆる必要な人に必要なものが送れる体制というのをやっぱり考えていく必要があると違うかなというように思うんですけども。それには多分、避難されてる方のニーズの把握というの、そういう方法も要るんだと思うんですが、そういういわゆるマニュアルというのかな、つくっておられるのかどうか。

○原口育大委員長        危機管理課長。

○危機管理課長（藤本和宏）        詳細という部分については、まだの部分がございます。そこについては、今後、そういうシミュレーション等をしながら、行動手順というんですか、そういうものをしっかりとしていけたらとは思ってます。

○原口育大委員長        北村委員。

○北村利夫委員        多分、今までは、避難するというのはまず一義的であって、その対策は充分できてるというように思うんですよね。やっぱりその次のステップに行く必要があるんじゃないかなと思うんで、そこらのいわゆる対策というのも考えていただきたいということで、終わっておきます。

○原口育大委員長       ほかにございませんか。  
蛭子委員。

○蛭子智彦委員       防災ベッドのことをちょっとお尋ねしたいんですが、今、庁舎で展示  
をしてますね。4件ほどやってるのかな。あれのちょっと少し説明をいただけたらと思う  
んですけども。

○原口育大委員長       危機管理課長。

○危機管理課長（藤本和宏）       現在、1階のフロアのほうで耐震に対しての対応という  
形の中で、ベッド系が三つ、それから、シェルター系が一つということで、今、展示をさ  
せていただいております。まだ、今週の土日で最終四つがそろったというところでござい  
ます。またそろった時点で、新聞発表等をして、また耐震の啓発ですか、設計士さんのほ  
うにお願いして相談会とかいう部分も今後していって、耐震の対応をしていけたらと思っ  
ております。

それであと、その関係がありまして、まだ資料のほうがきっちりそろってないので、  
現状、補助という形につきましては、建設課のほうが担当ということになるんですが、補  
助の部分については、今のところ、場所的に言いますと、入り口を入っていただいて最初  
の窓側のほうの耐震ベッドが、その分については、単品の費用としては37万円ぐらいか  
なと。それから、その奥側にある一条工務店の耐震シェルターになるんですが、そこにつ  
いては約25万円。それから、一条工務店の窓の反対側のほうにある物件については、約  
46万円で、その手前のほうが約45万円。そこへ消費税がつくと。あと、その建屋によ  
って、床がそれに持つかどうかという部分で、補強が要ってくるのかなということでは  
おります。

それで、その部分について、今回、県のほうで補助もありまして、今、耐震ベッドなり  
シェルターの部分については、以前までの10万円の補助に対して、市のほうで15万円  
足しまして、25万円を上限として補助をしているということで、上限が25万円を補助  
しますということで、今後、推進をしていくということになっております。

あと、それには簡易耐震の診断を受ける必要がありますが、その耐震診断については無  
料ということになって、推進をしていく予定にしております。

それから、その部分について、56年5月以前着工の木造ということが対象というこ  
とで、それについては従来と同じ形になるかと思えます。

以上です。

○原口育大委員長       蛭子委員。

○蛭子智彦委員           これら全て、南あわじ市の外の業者ですか。

○原口育大委員長           危機管理課長。

○危機管理課長（藤本和宏）           外の業者です。

○原口育大委員長           蛭子委員。

○蛭子智彦委員           市内で今後、代理店とか、これの関連取扱事業者とか、そういうようなことも、あるいは、これとは別のものを市内業者が開発するとか、そういったような可能性というのか、そういうのはどのように見ておられますか。

○原口育大委員長           危機管理課長。

○危機管理課長（藤本和宏）           そこの部分については、どうしても建設課が事業を推進していく部分になるので、そこの方向性については、ちょっとまだ聞いてない部分があります。

それとあと、この耐震して、上が倒れてきてももつんやというような部分が、かなり実験を重ねた中で、国なりの保証というんですか、そういうのがなければ、なかなか補助の対象にならないという部分もありますので、そこらとの兼ね合いがあるのかなと思います。以上です。

○原口育大委員長           ほかにございませんか。  
長船委員。

○長船吉博委員           個人情報保護法でちょっと聞きたいんやけども。8月から介護保険が改正になって、この前、2日ほど前に新聞に載ったと思うんやけども、入居費とか、そういう低所得者に軽減措置がある、その中で、貯金のコピーを出せと、また、タンス預金のコピーを出せというような兵庫県下の市町村がそういうふうに出してきとるんやけども、これは明らかに個人情報保護法に触れるのではないかということで、大いに問い合わせとか、そういう部分が来てるので、基本的な市としての考え方を、まずお聞きします。

○原口育大委員長           総務課長。

○総務課長（垣 光弘） 個人情報保護担当の総務課なんですけれども、自分の個人情報保護に関する部分については、行政側から出す文書についての個人情報に関する保護であるのかなと思っておりました。

以上でございます。

○原口育大委員長 長船委員。

○長船吉博委員 余り、もう一つ、説明の理解がしにくいんですけども。今回、こういうふうな部分に非常に市民、また、その家族が困惑してるというのが現実で、そこらの部分で、市としてどういうふうに本当に対応していくのかというのを、当然、僕らもそういうようなのを聞かれる。こんなん、ほんまにええんけと言われると思うんよ。だから、そのときに、市としての対応はこうですよということを、僕らは明確に示さな、より一層、市民が困惑する、混同するという部分でお聞きしとるんで、もう少しわかりやすく説明をお願いしたい。

○原口育大委員長 総務課長。

○総務課長（垣 光弘） 個人情報保護制度というのがあるんですけども、それは、市が保有する個人情報について、具体的な管理ルールを定めて、個人個人のプライバシーを保護するのが主なことであって、介護保険の制度に伴い、個人にその写しなり、銀行の預金口座の写しなりを求めていくというのは、その介護保険の制度によるものなのかなと思います。

以上です。

○原口育大委員長 長船委員。

○長船吉博委員 ということは、その制度にのっとって、市はそういうふうに行っていくというふうにとらえていいんですね。

○原口育大委員長 総務部長。

○総務部長（細川貴弘） 今、総務課長が申しあげましたように、個人の方から介護保険の担当の者が預金の写しなりを提出していただいて、それをチェックすると、それは、ほかの目的とかに使われるのでしたら問題はあるんですけども、介護保険のその目的に限定されて使用する情報なので、それにつきましては問題はないのかなと思います。

税務部とかで、滞納者に預金の関係とか、それは調査権があって調査するんですけども、そういうのを、銀行の調査をうちがその介護保険でありますとか、法制度を逸脱してやるようなことがあっては、当然ならないわけなんですけれども、制度に基づいて、本人といえますか、家族の了承のもとに提出していただいて、それを他の目的には使わないということが確約できるのであれば、制度上、問題はないというように考えております。

○原口育大委員長          谷口委員。

○谷口博文委員          ちょっと、この国際交流と友好市町の調査についてということでお尋ねすんねけど、セライナからこのたびも5人ほど来られると思うねんけど、この辺の人的交流やられとるんやけど、今まで何回そういうようなことをして、まず、南あわじ市から向こうへ、今後、この国際交流について、どういうふうなことをするのか、ちょっとお尋ねします。

○原口育大委員長          秘書課長。

○秘書課長（田村愛子）          この国際交流については、旧の南淡町からの継続で、市となっても派遣交流といった形で、学生さん等の交流事業を隔年に行っているというところですよ。

この10年間の派遣、南あわじ市内から学生プラス引率等も含めての派遣人数は約81名、今年度も含めてですね。受け入れのほうにつきましては約40名と、なかなか、受け入れのほうは人数的には少ないですけども、交流については、市内の学生なり高校生、また、ホストファミリー等も含めての、かなり大勢の人数での交流の機会を提供していただいたりしておりますので、これも継続的に今後、引き続きやっていくこととなると思います。

○原口育大委員長          谷口委員。

○谷口博文委員          隔年ということは、このたびセライナの方が来られると。そしたら、来年は、南あわじ市の方々がセライナへ行くと、そういう理解でよろしいんやね。

○原口育大委員長          秘書課長。

○秘書課長（田村愛子）          そうでございます。

○原口育大委員長          谷口委員。

○谷口博文委員          国内の友好市町とも人的交流とか、この辺はどのようにやられとるんですかね。国内の。

○原口育大委員長          秘書課長。

○秘書課長（田村愛子）          国際交流の中には、姉妹都市である国外と、それから国内の姉妹都市、友好市町というのがございまして、今申し上げたのは、国際的な国外との交流でございますけれども、国内につきましては、姉妹都市が1市、新ひだか町、それから、友好市町が4町ございます。

今現在、行政間の交流というのは、いろんな式典等での御出席を双方に行う交流でありますけれども、民間交流として、スポーツ交流ということで、合併当初から、少年サッカーでありますとか、少年野球クラブ、民間を通じての受け入れなり、補助を少し市から出して、友好都市にこちらのほうからもお邪魔をして、交流試合でありますとか、大会の参加であったり、そういうような交流をずっと継続して続けております。

○原口育大委員長          谷口委員。

○谷口博文委員          ほんなら、この南あわじ市、この10周年事業というんか、それに対して、南あわじ市市制10周年記念式典をやると思うねけんど、その辺は、そういう友好市町というのは当然、これ、いつやるのかと、その辺の案内はどないなるのかと。

○原口育大委員長          秘書課長。

○秘書課長（田村愛子）          詳細はまだこれから詰めていくところではございますけれども、一応、式典に関しましては、日程的には11月中旬で、一応、調整のほうをさせていただいております。

それから、招待者とか友好市町との関連でございますけれども、それも式典に先立ちまして、交流的な機会を設けてみたいと、今のところはそのような計画をしております。

○原口育大委員長          谷口委員。

○谷口博文委員          ほんならこれ、職員の人事交流的なものは、今まで、職員を向こうへ派遣したりとか、向こうの職員にこっち来てもらうたりとか、そういうことはしたことな



いんですか。

○原口育大委員長          秘書課長。

○秘書課長（田村愛子）          そういう職員の人事交流はしておりません。

○原口育大委員長          谷口委員。

○谷口博文委員          私も、葛巻にちょっと行ってきたんですわな。そしたら、ケーブル事業を、葛巻で3人で、南あわじ市以上のすばらしいケーブルの放送をしょんのよの。そこらを私は、南あわじ市のケーブルの担当の職員を葛巻へ1年ぐらい人事交流して、向こうへ行っていただいて、ケーブルのノウハウというやつを学んできてほしいと思うのやけんど。そんなは無理なんですかね、副市長。

○原口育大委員長          川野副市長。

○副市長（川野四朗）          いや、それは、やろうと思えばできると思います。ただ、それがいいかどうか、検討の余地があるなと思います。

この間も、議長さんと葛巻のほうに60周年記念式典があって行ってきたんです。そのときも、議長さんとも話をしよったんですけど、あそこ、三セクの事業が非常に好調ですよ、皆さん方も御承知のように。そういうところでございますので、我々が泊まらせていただいた宿舎についても、非常に好調な営業をやつとるというふうなことでございしました。

我々のほうでも、宿舎事業も直営でやってるわけですので、そういうところの職員は、その葛巻に行って運営の方法を学んできたらしいのになと、一遍、視察にでも行ってもらうほうがいいなという話は、このとき、議長さんともちょっとしておりましたので、やっぱり参考事例として、そういうところを視察するのも、一つの交流の一助になるのかなと思います。

○原口育大委員長          谷口委員。

○谷口博文委員          私はほんまに、そういうふうな姉妹都市と人的な交流もしていただいて、やはりすばらしい学ぶべきような事業は学びとっていただいて、市政に反映していただく、これがやっぱり友好都市との関係やと思う。

それともう1点、例えば葛巻だったら、ブドウ、ワインとか、ああいうふうなやつの販

路というんか、その辺も姉妹都市として、これはまた担当が違うねけんど、例えば、そういうふうな1市4町の特産品というか、葛巻やったら、ワインならワインを、向こうのワインをこっち側で売ったとか、それが友好関係を構築できると思うんよね。ただ単に、記念式典だけで、60周年やさかいうちが行った、10周年やから来ていただいたとか、そういうやつでなしに。やはり、他市に学ぶというか。

葛巻の、私は感心したのは、臨時職員が3人ほどで市内のケーブル。ほいで、加入者に対しては月500円の加入費で、議会にしたって、ある程度、委託する事業は当然、専門的な業者に委託しよるような状況でやっていっとると。ほんま、コストカットというか厳しい条件の中で、かなりのケーブル事業を展開していただいとると。

そやから、そこらをほんまちょっと、そういうふうなノウハウを習得していただいて、市内のケーブル事業に反映していただきたい。それと、友好市町というたって、その辺とのもっと密にして、お互いの特産品をできるようなことをしながらやるのが本来の友好姉妹都市やと思うんで、その辺、今後、検討としてよろしくお願ひしたいと思います。

終わります。

○原口育大委員長          答弁はいいですか。  
川野副市長。

○副市長（川野四朗）          人的な交流の話になってきますと、やっぱり相手のほうの考え方もございますので、そこらあたりは今後、この秋には我々のほうでも交流会もしなければいけないというところでございますので、そういう機会を捉まえて、話は一回、してみたいというふうには思っております。

○原口育大委員長          ほかに。  
蛭子委員。

○蛭子智彦委員          関連になるんですが、ことし、新ひだかから少年野球のチームが友好活動ということで来てるんですか、来る予定になってるんですか。

○原口育大委員長          秘書課長。

○秘書課長（田村愛子）          少年野球の交流につきましては、8月12日から4日間の予定で、こちらのほうに来られるというふうに伺っております。

加えて、同じく新ひだか町のほうへ、こちらの西淡地域のサッカーチームが4日間の予定で、きょう、出発をしております。

○原口育大委員長          蛭子委員。

○蛭子智彦委員          きょう、朝、見送ってきたんですけども。この新ひだかからは、どのようなペースで来られていますか。少年野球、サッカーも含めて。

○原口育大委員長          秘書課長。

○秘書課長（田村愛子）          合併してから、こういう友好市町とのスポーツ交流というのは、民間の団体の中で、双方に行っているというところで、今、記録の範囲ではございますけれども、平成17年から、サッカーチームでは5回ほど、派遣という方向での交流は5回ほどあります。今年度を加えますと、6回目になろうかと思います。

それから、受け入れのほうでございますが、他市のほうから、友好市町のほうからこちらのほうに来られた受け入れのほうですが、サッカーが過去2回ほど、これは静内のほうから旧町の関連で来ていただいたのかと思うんですが、それから、新ひだか町のサッカーが1回と、それから、今回も含めて、新ひだか町の少年野球団が2回目ということでございます。

○原口育大委員長          蛭子委員。

○蛭子智彦委員          大体、バランスがとれてるということですね。少年野球はなかなか行きにくいというような話がちょっと聞こえてきたんですけども、こちらから行くのに、そういう話が一度あったんですけども、人形と競合して、結局、補助金が非常に足らなかったんで、保護者負担が大変だということで、よう行かんかったというような経過もちょっと聞いたことがあるんですけども、この少年サッカーなどが行く場合の負担金はどのようになっていますか。

○原口育大委員長          秘書課長。

○秘書課長（田村愛子）          合併当初は、補助金の予算が100万ございまして、それを参加チームで、2団体あれば、必要経費の中で案分をした補助率になっていたかと思います。それ以降、やっぱり財政の関連で、補助金が今現在も含めて50万という、2分の1になったわけで、なかなか複数の団体に補助を出すというのは金額も低くなる関係上、保護者の方の負担がかなり大きくなるというところが、最近ちょっと交流も難しくなっているという原因かなと思います。

○原口育大委員長        蛭子委員。

○蛭子智彦委員        決算的なものは恐らく出てると思うんですけども、大体、保護者の負担というのはどれぐらいになってるんでしょうか。

○原口育大委員長        秘書課長。

○秘書課長（田村愛子）        詳細な決算書類は今ちょっと手元にございませんが、やはり十数万の負担は否めないかと思います。

○原口育大委員長        蛭子委員。

○蛭子智彦委員        よそのことはちょっとわからないかもわからないんですけども、新ひだかのほうでも少し補助があるというような話もあるんですが、そのあたりはどうなってるかわかりますか。

○原口育大委員長        秘書課長。

○秘書課長（田村愛子）        新ひだか町の補助についてまで、ちょっと私自身は把握しておりません。申しわけないですけど。

○原口育大委員長        蛭子委員。

○蛭子智彦委員        ちょっと一回、一度調べていただいて、どんなようなことになってるか。割と向こうからのほうが来やすいというような。規模が、新ひだか町ということで言えば、規模も小さいんですけども、大体、対等な格好で来てもらってるというようなことで、これは推測なんですけれども、そういうこともあるのかなというようなこともちょっと思いましたのでね。一度、詳細にわたって調べていただけたらなというふうに思いますが、よろしいでしょうか。

○原口育大委員長        秘書課長。

○秘書課長（田村愛子）        また今後、交流を続けていく上で、やはり双方の情報も把握しておかないとということから、また調べておきたいと思います。

○原口育大委員長       ほかにございませんか。  
蛭子委員。

○蛭子智彦委員       いろんなことに飛んで悪いんですが、防災の考え方でもう1点だけあるんですけども、昨年だったか、総務常任委員会で、敦賀のほうに行政調査に行ってきたんですね。そのときに、原発の重大事故が起こったときに、住民の避難として、県外避難というようなことで、たしか、敦賀の場合は、奈良県の何カ所かに避難するというような話だったかと思うんですね。それはすごいなというか、大変だなという思いがあったんですけども。

後で調べてみますと、原発重大事故に関連して、南あわじ市も県外避難者を受け入れるような話になってると聞いとるんですが、それはどうなってるんでしょうか。

○原口育大委員長       危機管理部長。

○危機管理部長（佃 信夫）       今おっしゃってるのは、関西広域連合が計画しているガイドラインというのがございまして、それに沿った広域避難ということでございます。

先ほどおっしゃったように、敦賀については奈良県ということですが、本市については、京都府の南丹市の方々の受け入れをするような計画となつてございます。

○原口育大委員長       蛭子委員。

○蛭子智彦委員       どのような受け入れになるんですか。

○原口育大委員長       危機管理部長。

○危機管理部長（佃 信夫）       いわゆる原子力災害が起こった場合に避難を受け入れるということですが、市内の避難所というのがあらかじめ指定されておりまして、本市では、南丹市の3小学校区の1,792世帯、人口的には4,195人を9カ所の避難所、例えば、松帆活性化センターとか、具体的に避難所を挙げた上で受け入れをするというような計画でございます。

これにつきましては、平成26年度に実際に南丹市の方々、約30名の方々が避難訓練ということで、実際に松帆活性化センターを訪れまして、状況を把握したということがございます。

○原口育大委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 こういうことはないほうがいいんですけども、仮に、こういう事故が起こると。原発事故というのは、地震の場合が結構多いですね。そうした場合、こちらも相当、避難者を出す、そういうものがあると。競合したりする可能性も出てくると。

今の話でいくと、十分受け入れるというようなお話だったんですけども、この市内9カ所でこういう方が、仮に全部が来られて、また競合してということになった場合、大変混乱するようなこともあるかと思うんですけども、そういうのは整理されておりますか。

○原口育大委員長 危機管理部長。

○危機管理部長（佃 信夫） このガイドラインにつきましても、平成23年度から約3カ年ぐらいかけて、広域にまたがっておりますので、関西広域連合の関係する自治体、そのいろいろな自治体同士のマッチングとか、受け入れ態勢の細部にわたるまで調整したということで、現在は、そのガイドラインにおいて、そういった計画はできておるんですけども、先ほど、北村委員からいろいろ質問があったような、例えば、たくさんの方が来られた場合の個人情報、例えば区分けとか、その辺まではまだ計画ができてないのが現状かと思います。

したがって、その辺も、市内のもちろん避難所のこともありますけども、そういったことも、ある程度は対策を練っておかなければ、万一、そういった事態が生じた場合、混乱するということでございます。そういった対応につきましても、今後、早く対策を練っていきたいと思います。

○原口育大委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 関西広域連合で決めて、行政サイドで着々と準備しているというような話なんですけれども、そういう情報提供というのは、今までしていただいていたか、この件に関して。

○原口育大委員長 危機管理課長。

○危機管理課長（藤本和宏） 公にこういう受け入れをしてますというのは、今回、これも今現状で、流れ的には、広域連合の中でそういう受け入れが始まってきたということで、その基本的なところについては、広域連合のほうで福井のほうの原発で、地震等があって原発があった場合に、30キロ圏外の部分の中でそういう受け入れ態勢を整えるとい

うことがありました。その中で、兵庫県もマッチングという、部長が、いわゆるマッチングという部分の中でも、京都のほうにすれば兵庫県とかいう部分、また、徳島の部分も入ってきております。

というのは、いざ地震があった場合に、先ほど蛭子委員も言われておったように、こちらのほうの被害という部分もございますので、そこらを踏まえて、こちらのほうで受け入れる態勢ができているかどうかという部分も協議をしながらということでは聞いておりますので。

○原口育大委員長          蛭子委員。

○蛭子智彦委員          その、一旦災害が起こったら、そんな悠長な協議、受けるとか受けへんとかいう、そんな時間ないと思うんですよ。もう起こったら、それはどんどん来ると、受け入れると、その体制を整えておくということではなければ、南丹市から来られたということであっても、それが状況、どうなっているか、我々何も知らない。9カ所と言われたけども、どこがなっとるかも知らない。これはちょっといかんと思うんですよね。その点、しっかりとした情報提供をやっぱりしていただいて、その中身も議論しておかないといけないんじゃないですか。どうですか。

○原口育大委員長          危機管理課長。

○危機管理課長（藤本和宏）          そこについては、また、情報。

○原口育大委員長          危機管理部長。

○危機管理部長（佃 信夫）          このガイドラインにつきましては、関西広域連合なんかでホームページに必ずちゃんとそういったガイドラインの全体像を周知するようなリンクがありまして、それをたたけば出てきます。ただ、今おっしゃるように、南あわじ市内、市民の方々には周知ができてないということがございますので、原発の問題については、受け入れのほうの側ということなんで、余り、対岸の火事みたいなところもあるんですけど、それにつきましても、受け入れ側としまして、対策を練った上で、これもやっぱり市民の方々にも周知する必要があると思いますので、整備した段階でまた周知していきたいと考えております。

○原口育大委員長          蛭子委員。

○蛭子智彦委員      ガイドラインも、今の状態であると思うんですよね。例えば、松帆活性化センターというても、畳の部屋にずっとおってもらうのか、あるいは仮設住宅のようなものを建てるのか、そういうこともちょっとわからないですね。原発の事故というのは非常に長期化するというような傾向もあると思うんですよ。そうした場合の方向性というのは、ちょっと関西広域連合で話し合ってるからそれで万全ですよということではないと思うので、現地でどう考えていくかということをもうちょっと議論しておかないと、これは現実的に、いざ起こったときには何もできないというような、混乱するだけでないかというような気がしとるんですけどね。どないですか。

○原口育大委員長      危機管理部長。

○危機管理部長（佃 信夫）      おっしゃるとおりなんで、その辺、基本的なことはきちんと対策を練っておきたいと考えております。

○原口育大委員長      蛭子委員。

○蛭子智彦委員      今、手元にあるガイドラインなり、これやっぱり、配布するなり、何かの形で議論ができる形を整えていただきたいなというように思ってますので、これはまた委員長にもお願いせないかん話かなとは思ってますけどね。

そのあたり、きょうは資料としてもらえるようなものがあつたとしても、ちょっと見られないんですけども。せめて、そのガイドラインぐらい、委員に配付するというようなこと、委員長、諮っていただけませんか。

○原口育大委員長      広域連合が計画してて、あと、市がどういう受け入れ態勢をするかということについて、一度、まとめたものを委員会のほうに出していただけたらと思いますけど、できますか、準備が。

危機管理部長。

○危機管理部長（佃 信夫）      ガイドラインの概要については、もちろんすぐにでも提供できるんですけど、まずはそれをさせていただいて、その受け入れにつきましては、かなり協議が必要かと思しますので、それにつきましては、でき次第ということをお願いしたいと思います。

○原口育大委員長      そしたら、準備でき次第、また配付いただきたいと思います。  
ほかにございますか。休憩挟んだ後、ございますか。あれば、そしたら。



暫時休憩します。

再開は、１１時５分とします。

(休憩 午前１０時５５分)

(再開 午前１１時０５分)

○原口育大委員長 再開します。

質疑ございませんか。

蛭子委員。

○蛭子智彦委員 火葬場のことについてお尋ねしたいんですが、これ、合併特例債でもって建設をするという計画であったかに思うんですが、この火葬場の建設に向けての状況ですね、どんなようになっていますか。

○原口育大委員長 市民部長。

○市民部長（高木勝啓） まず、候補地として幾つか選定いたしまして、最も有力な候補地ということで、地元の会議を重ねておるところでございます。ただ、反対意見を持ってる方もいらっしゃいますので、現在のところ、そういう調整を行っているところでございます。

○原口育大委員長 蛭子委員。

○蛭子智彦委員 調整をしていただくということなんですが、この建設に向けてのテンポというか、一定のゴールというのか、期限は決まってくる話であるのかなと思うんですけども、その点いかがなんでしょうか。現状の火葬場の状態も含めてですけどね。現状の火葬場の状況も含めてなんですけども、老朽化も非常に進んでるというようなこともありますのでね。そのあたり、どうなんでしょうか。

○原口育大委員長 市民部長。

○市民部長（高木勝啓） もちろん、合併特例債の期限を意識しながら進めておるところでございます。また、候補地ということもございますけれども、今年度につきましては基本計画の策定ということで、施設の規模の設定、その候補地が適切かどうかというよう

な検証もしてみて、地元の調整と並行しながら進めておるところでございます。

○原口育大委員長          蛭子委員。

○蛭子智彦委員          地元というのは、これも前にもこの委員会でお尋ねしたかと思うんですけども、淡路市の例をとりますと、地元調整というか、建設地の集落との話し合いは大体できた。ところが、そこに入っていく道路周辺であるとか、もう少し、字ですね、集落じゃなくて字のところでのいろんな意見があったというようなことで、少し手続としては抜かりがあったのかなと。そういう点では、南あわじ市の場合は、そういう手抜かりがないようにというようにも思っておるわけですけども。その段取りも含めて進んでおるわけですか。

○原口育大委員長          市民部長。

○市民部長（高木勝啓）          まず、反対されている意見の中に、風評被害等、おっしゃる方もおいでになります。その土地の地名云々ということにつきましては、また行政のほうで対応も考えているところでございますけれども、まだその該当する地元の調整も整っておりませんので、その辺に力を注いで、なるべく早いうちに御理解をいただきたいと考えております。

○原口育大委員長          蛭子委員。

○蛭子智彦委員          気をつけなければいけないのは、地元がよかったからというようなことではなくて、やっぱりその淡路市の教訓としては、やっぱり小学校区単位の中での話もかなりあるようにも聞いておるんですね。ですから、せめて小学校区単位の中での区長とかにも、そういう情報提供をやっぱりしていく必要があるんじゃないのかなというように思っておるんですよ。それはもう、地元では恐らくそういう話はもう出ておると思いますのでね。何も知らないということでもよくないのかなと。

そのあたりが逆に言えば、問題として淡路市はなってきたというようなことがあったかと思うんですよ。そのあたり、抜かりがないようにというのは、十分に配慮もして、情報提供もし、話し合いもしっかりとやっていくことが大事でないのかなと思っておるんですけども。そういう動きにぜひ、取り組んでいただきたいと思いますのですが、どうですか。

○原口育大委員長          市民部長。

○市民部長（高木勝啓）          ただいま申し上げました候補地についての公表につきましては、やはり時期を見て公表して、それぞれ周知していただかなければならない時期が来ようと思います。そういうことで、まだ地元の方も、ほかの地域の方にそういうふうに言われるというのが一番懸念されておりますので、いましばらく調整をして、公表する時期、周知する時期を整えていきたいと思っております。

○原口育大委員長          蛭子委員。

○蛭子智彦委員          ちょっと誤解されとると思うんやけども、公表するということは、もう決まったということでしょう。了解なしに公表なんかできるわけないですよ。決まっておって、地元合意もとれて公表でしょう。だから、公表して地元合意をとるというような、今、ちょっとお話に聞こえたんですよ。違うんじゃないですか。

○原口育大委員長          市民部長。

○市民部長（高木勝啓）          ですから、反対意見として厳しい意見も賜っておりますので、そこら辺はまだ予定地とまでは言ってごさいませんので、公表を控えさせていただいておるところでございます。

○原口育大委員長          蛭子委員。

○蛭子智彦委員          だから、ちょっと違うというのはそこなんです。地域団体、地縁団体のある程度理解をしていく内部協議、事前協議、これは公表する以前の段階の話であって、そこが整ってこそ公表できるんであって。候補地として挙げて積極的に動いてる対象地域もあるというふうに聞いておるんですね。

そういうことであれば、そういう組織として動いてる地縁団体、地域団体があるわけですから、情報提供なり、協議の動きなりの情報はやっぱり入れていくべきではないのかなと。そこが決断するというのではなくて、こういう状況でこういう問題が起こってるということぐらいは、やはり情報提供が必要じゃないですか。何も知らないということであれば、その関係、そこで一応のクリアをしておけば、それはやはり、向こうの地域の話だからというようなことであればそれで済むし、自分たちを蚊帳の外に置くんかというような印象を持つ関係者の方も、当然出てくると思うんですよ。

そういうのが地域団体、地縁団体の一つの特徴でないかなと思うので、それが何も手を打たれてないということは、やはり将来、かなり厳しい話がまた出てこないとも限らないので、事前の手を打っておいたほうがいいんじゃないのかなということなんです。そう

思いませんか。

○原口育大委員長          川野副市長。

○副市長（川野四朗）          委員さんも御心配はしていただいておりますことは、やっぱり我々としても心配なんです。こういう施設につきましては、もろ手を挙げて賛成というところは、幾ら探してもないだろうと思ってます。したがって、我々としては、適宜適切に物事を進めて、先ほどおっしゃったようなことのないように、できるだけ円満な形でこの事業が進められるように、特に期限も、先ほど言いましたようなところにもあるわけでございますから、そういうものを一つ一つ吟味しながら、今、やっているとところでございます。

委員さんのおっしゃっておるようなところも、我々としては念頭にあるわけでございますが、それにしても、計画的に進めていかないと、ボタンの掛け違いになっても困りますから、そういう点は、我々、慎重になって今、やっているところでございますので、もう少し、皆さん方の御理解をいただいて、時間をお貸しいただくようお願いをしたいと思います。

○原口育大委員長          蛭子委員。

○蛭子智彦委員          そういう立場でおるつもりなんです。本来であれば、市長が元気であれば、市長が出番の中で地域住民との対話をよく深めてもらって推進していくということも可能であろうかと思うんですけれども、現状ではなかなかそういう出番もとりにくいような状況もありますので、かなりしんどい思いを、副市長初め、市担当課、担当部もかなりしてるのかなということも思うんですけれども。やはり、そうであっても、地域住民とすれば、市からのいろんな丁寧な説明というのを期待されてるというふうに思いますので、その点十分やっていただければと思います。

終わります。

○原口育大委員長          ほかにございませんか。  
蛭子委員。

○蛭子智彦委員          もう1点。これ、6月の一般質問、焼却場のことなんですけれども、一部で淡路島の中でのごみ焼却場を一つにするというような話もあると。しかし、一つにすると大変不便が出てくる、いろんな焼却場の制限なりもあったりして、なかなか地域にとっても大変なことになってくるんじゃないかというようなことがあるんですけれども。そ

の焼却場についての考え方、流れ、これはどのようになってますか。

○原口育大委員長          市民部長。

○市民部長（高木勝啓）          今現在、南あわじ市と洲本市においては、やまなみ苑で共同処理をしておるのが現状でございますけれども、それに至る経過といたしまして、平成21年度に淡路広域行政の市長会及び副市長会からの指示がありまして、そういう淡路を一つにして、まず統合できないかというような検討がなされておりました。平成22年度当初から、淡路地域3市の環境整備担当課長会に各部長が加わりまして、協議しておったところでございます。

3市の事情はそれぞれ異なるところでございましたけれども、特に南あわじ市におきましては、平成7年に建築されたものでございますから、大規模な工事が必要になってこよう、これを継続させるには、約10億円以上の工事費が必要になってくるというようなこと、申しわけございません、やまなみ苑が平成7年でございます。寺内のほうが昭和63年で、2期工事が平成に入ってからということで、寺内の清掃センターが一番古うございました。

そしてまた、夕陽が丘クリーンセンターにつきましては、平成11年に建設されたものというようなことで、建設時期がまちまちであること、また、今後の経費を考えて、もう一つ大きいのが、ごみの量が減ってきた、その幾らかの点を検討しましたところ、ただいまの兵庫県の淡路地域の広域化の計画に照らし合わせますと、淡路市で一つ、旧の三原郡洲本市で一つという広域化計画がございましたので、一旦、そこで広域化を進めていこうということで、現在、平成26年度からやまなみ苑に統合して、2年目にかかろうとしております。統合も2年目に入りまして軌道に乗ってきましたので、また今年度から、3市でもっての広域化の協議に移りたいというところでございます。

○原口育大委員長          蛭子委員。

○蛭子智彦委員          この3市での広域化という言葉をもう少し言いかえれば、3市で一つに統合するというふうに考えておるわけですか。そういうふうな言いかえになるんですか。それとも、現状の二つの体制を維持していくという考え方なのか。あるいは、一つにするか、二つにするかを協議するということなのか。どういうことでしょうか。

○原口育大委員長          市民部長。

○市民部長（高木勝啓）          この件につきましては、まず、3市を一つにしようという目

的でリスタート、もう一度開始したいと考えております。

○原口育大委員長          蛭子委員。

○蛭子智彦委員          3市を一つに、3市の焼却場を一つにするということになると、夕陽が丘を廃止するのか、やまなみ苑を廃止するのかという話になるんですね。そういうことになるわけですか。それとも、違う場所につくるんですか。

○原口育大委員長          市民部長。

○市民部長（高木勝啓）          移設も考えての協議になろうと思います。ただ、寺内が統合するときに、やまなみ苑の施設で、今の2市のごみが入るかどうかを検討したところ、何とか処理できるというようなことで、ごみの減量化も各町進んでおります。大きい施設をまた何回も繰り返して大規模工事をするよりも、やはり排出量に合わせた形で、当然、幾らかの余裕は必要だと思いますけれども、そういう一つにしたほうが効率がよいと。

それともう一つ、奥畑の粗大ごみ処理場も、平成8年度にできた施設もありますので、これ、今すぐに統合というわけにはいかないと思いますけれども、現在から協議を進めていくのがよいであろうという考えで進めていきたいと思っております。

○原口育大委員長          蛭子委員。

○蛭子智彦委員          大規模化するという事になったときに、メリットもあるけれども、例えば輸送コストによってごみ処理の費用がかさんでくる、それは、ごみ袋なりの値上げになってくる、そういうことも当然、考えられるわけですね。そういう市民の負担コストというのも当然、そろばんではじくと思うんですけれども。

そういうことの議論というのは、情報というのは、例えば、これはやまなみ苑の問題であるとか、夕陽が丘の、広域の問題であるとかいうような考え方でいくんですか。それとも、こういう所管の事務調査の中で議論していくわけですか。それはどのように考えておられますか。

○原口育大委員長          市民部長。

○市民部長（高木勝啓）          もちろん、1カ所にするかどうかというようなことでございますけれども、1カ所にするという考え方でございましたら、やはり淡路広域というような形で運営していくべきだと考えております。

ただ、輸送コスト等につきましても、この平成22年度に試算いたしまして、1カ所の用地をどこで選考するかというところも、短い間で行いましたけれども、検討材料にしておりました。ただ、その次に移設となりますと、その場所によって、いろんな運搬の仕方が出てくようと思います。そこら辺もあわせて検討してまいりたいと思います。

○原口育大委員長          蛭子委員。

○蛭子智彦委員          市民直結の話になってくる、広域の課題で考えるのか、それとも所管の中でももう少し突っ込んで考えるのか、その点の今のスタンス、それをちょっとお伺いしたいんですが。

○原口育大委員長          市民部長。

○市民部長（高木勝啓）          やはり、ここの窓口といいますか、検討する組織は、あくまでも淡路広域行政の管轄で招集して検討するというところでございます。いろいろコスト的につきましては、やはりそういう施設はごみの量によって集約するということが、輸送費よりもそういう処理コストのほうが高いということが大体、見当がついておりますので、その辺のこともあわせて、もう一回試算したいと考えております。

○原口育大委員長          ほかにございませんか。  
北村委員。

○北村利夫委員          また避難場所のことなんやけども、普通、避難場所というたら大体、床敷きが多いんですかね。体育館。

○原口育大委員長          危機管理課長。

○危機管理課長（藤本和宏）          地震という部分については、どうしても体育館での集約が主になってくようと思います。

○原口育大委員長          北村委員。

○北村利夫委員          いわゆる体育館、夏場ならともかく、冬場に起こった場合、やっぱり下が土間になってくるのは大変やと思うんですよね。これ、今、県の畳組合ですか、あそこらが、いわゆるそういう避難場所に畳を送る運動をされているということがある。いわ

ゆる、このたび、口永良部島ですか、あそこで噴火が起こったときに、あその住民が全部、屋久島に避難されてると。その屋久島に、いわゆる兵庫県の畳組合が、畳を何百枚と送られたんですよね。そういうことをやっておられる。

今、そこだけでなしに、この間、マスコミであったんですけれども、小野市でしたか、あそこらが畳組合と協定を結んで、そのときに畳を送っていただくというような運動を畳組合の方がされておられるということなんで、もし、そういう協定が結べるなら、この南あわじ市も、それに一枚かんだらどないかなと思うたりするんですが、こういう情報は入ってないですか。

○原口育大委員長          危機管理課長。

○危機管理課長（藤本和宏）          情報については入ってないと、その屋久島の部分については、ちょっと兵庫県というのはわからなかったんですけど、畳組合のほうからそういうのが入ってたというのは、テレビで見てちょっと知ってたんですけど。そういうのが協定という中でしてるのは、こちらのほうはちょっと情報は入ってなかったです。

○原口育大委員長          北村委員。

○北村利夫委員          またそこらも一回、畳組合のホームページがあると思うんで、確かな情報かどうかというのを含めて、一回、検討していただきたいというように思うんです。

○原口育大委員長          危機管理課長。

○危機管理課長（藤本和宏）          また確認をさせていただきます。

○原口育大委員長          ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○原口育大委員長          質疑がございませんので、所管事務調査についての質疑を終結したいと思います、よろしいですか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○原口育大委員長          では、質疑を終結します。



その他の項で、執行部からの報告事項がありましたらお願いします。  
ふるさと創生課長。

○ふるさと創生課長（北川真由美） 企業団地の状況でございますけれども、B F 9 の区画、雇用促進住宅の横が残っております。その区画に、洲本市納の株式会社大幸さんの企業進出を決定いただきました。区画につきましては、4,500 平米ほどの区画でございます。

それで、企業団地の利用でございますけれども、倉庫と事務所、それから、厨房機器、冷暖房機器等の販売も一緒に行う予定でございます。

以上、報告をいたしました。

○原口育大委員長 今の報告については、特に何もありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○原口育大委員長 ほかに報告事項はありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○原口育大委員長 ないようですので、本日の委員会を終了したいと思います。

次回は、この前の議運で決めました8月18日火曜日午前10時から開会を予定しておりますので、よろしくお願いします。

なお、9月の定例会で、1年間の委員会調査報告を行いますので、次回の総務委員会におきましては、これまでの部分について、簡単にまとめたものを資料配付させていただきたいと思っておりますので、その時点でまた確認をお願いします。

あと、総務としての管内調査というのは今年度してないんですけれども、もし次回とかにそういうテーマがありましたら、やりたいと思うんですけど、何か今、管内調査等で思いつくようなもの、ありますか。もしなければあれですけど、もしありましたら、また次回の案内までに調整したいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、本日の総務常任委員会、これにて閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

（閉会 午前11時34分）

委員会条例第 30 条の規定により、ここに署名する。

平成 27 年 7 月 24 日

南あわじ市議会総務常任委員会

委員長 原 口 育 大